

※試験期間に筆記試験を実施した。持ち込み不可とするかわりに、事前に問題の出題形式（一問一答式10問・記述式4問中2問選択式であること）と記述式の問題をアナウンスした。

◇試験問題（試験時間 90 分、持込不可）

【問題 1】 次の①～⑩の問いに答えなさい。

- ①『資本論』の著者は誰？
- ②『資本論』で提示された「資本の一般的公式」。G - W - 何？
- ③ それまでの思想や立場を変更すること（とくにマルクス主義を放棄すること）を何という？
- ④ 昭和 20 年 8 月 15 日の「玉音放送」。放送されたのは誰の声？
- ⑤ 日本国憲法が施行された年（西暦）月日を答えよ。
- ⑥ 丸山眞男の論文のタイトル。「何の論理と心理」？
- ⑦ 丸山眞男が論文「軍国支配者の精神形態」において「抑圧委譲の病理現象」としたものは何？
- ⑧ 坂本義和の論文のタイトル。「何日本の防衛構想」？
- ⑨ 日本が降伏文書に調印したのは 1945 年の何月何日？（アメリカではこの日が対日戦勝記念日とされる）
- ⑩ 江藤淳が「“戦後”知識人の破産」で言及した丸山眞男の講演のタイトルは「何の説」？

【問題 2】 次の 4 つのうちから 2 問選んで答えなさい。ただし、論述にあたり講義で扱った内容を踏まえたものとすること。問題番号順どおりに答えなくてもよいが、冒頭に選択した問題番号を示してから論述をはじめること。

- ① 昭和戦前期において「革新」派が台頭した時代背景と、その思想について述べなさい。
- ② 河合栄治郎の思想について述べなさい。
- ③ 尾高朝雄の思想について述べなさい。
- ④ 「8・15」をどう捉えるかについて（講義で扱った人物を、それぞれ比較しながら）述べなさい。

◇解説

毎回講義で配付した資料と、まとまった段階で配付した「確認プリント」をもとに準備していれば難なく解ける問題である。

【問題 1】を解く際は漢字の書き間違いに要注意。【問題 2】については、問題文にあるように、講義で扱った内容を踏まえた論述であること。論理的に上手に話を展開できていれば高評価となる。なお、問題を事前にアナウンスしており、試験にむけての準備期間があった。その準備期間において各自調べたことを付け加えたりしている場合、評価（加点）の対象となる。

【問題1】①（カール・）マルクス ②G´〔※Gにダッシュがつく〕 ③転向 ④昭和天皇
⑤1947年5月3日 ⑥超国家主義 ⑦下剋上 ⑧中立 ⑨9月2日 ⑩復初

【問題2】

それぞれ講義で扱ったことは次の通り。

①：配付した第3回～第5回講義資料を参照。時代背景として政党や財閥に対する不満（疑獄事件、団琢磨暗殺など）について言及し、陸軍パンフレット事件や（第2回講義で扱った）マルクス主義と国家社会主義の国家観の違い、新体制運動（大政翼賛会）やこれに対抗する観念右翼（蓑田胸喜）をとりあげて、「革新」派の特徴をみた。

②：配付した第6回講義資料を参照。農商務省に入ってから以降の河合栄治郎の思想形成について、T.H.グリーンやフェビアン協会への関心、自由主義は自由放任主義から社会改良主義そして社会主義（＝「第三期自由主義」）へと至るべきだと主張していたことについて扱った。

③：配付した第8回講義資料を参照。尾高朝雄について『国民主権と天皇制』『法の窮極に在るもの』『数の政治と理の政治』といったテキストをとりあげ、彼のノモス主権論の主張、ラートブルフの法哲学の紹介などについて扱った。

④：配付した第7回、第10回および第13回講義資料を参照。宮沢俊義の「八月革命」説や丸山眞男「超国家主義の論理と心理」における「8. 15」の位置づけ、丸山の「復初の説」に対する江藤淳や大熊信行の違和感について、さらに、江藤による日本国憲法制定過程の資料調査についてとりあげた。

以上